

# 空調設備を更新し、 安心・安全な教育研究環境・避難生活環境を確保する

## 【対策】18 国際連合大学本部施設の安全確保対策

対策概要：施設・設備の劣化の状況を踏まえ、中長期修繕計画を計画し、安全性等の観点から喫緊度の高い施設・設備の営繕を順次行う。

府省庁名：文部科学省

## 【事例】国連大学本部施設の空調設備更新

■ 実施主体：文部科学省

■ 実施場所：東京都渋谷区

■ 事業概要：国際連合と日本国との間の協定に基づき、日本政府がその施設に責任を有する国連大学は、我が国に本部を置く唯一の国連機関として、国内外の要人を含めた外部の利用者も多く、**在籍する学生や研究者のほか年間約8万人の利用実績**がある(2018年当時)。また、都内有数の乗降客数である渋谷駅近傍に位置し、**災害時の帰宅困難者受入施設として最大約400人の受入れが想定**されており、当該地域の防災施設として重要な役割を担っている。本部施設(1992年竣工)では、老朽化により空調設備に不具合が発生しており、災害時に避難施設としての機能を十分に発揮できない可能性があることから、全29箇所空調設備の更新を順次実施している。

■ 事業費：約11億円  
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)約11億円)

■ 効果：空調設備の更新により換気風量が改善することで、感染症の拡大防止を図り、**安心・安全な教育研究環境を確保**するとともに、南海トラフ・首都直下地震等の将来の災害時における**受入施設としての避難生活環境の確保**を図った。

空調機外観



空調機内部

※更新前は錆付き、腐食、目詰まりによる機能不全の状態

